

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和4年度FS・令和5年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2022-6	リサイクル炭素繊維のコンクリート構造物用補強材への応用	岐阜大学 教授 國枝 稔	A
<p><研究の概要></p> <p>自動車産業、航空機産業、洋上風力発電事業などで用いられる炭素繊維(CFRP)から取り出されたリサイクル炭素繊維を用い、コンクリート構造物の補修に用いる補強材を開発する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>接合技術、樹脂含浸技術、ネット状補強材それぞれの開発が順調に進められ、施工マニュアルや指針を含む実用化に向けた成果が期待されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・強度、ばらつき、補修工法と構造特性の相互関係性を踏まえた設計・利用方法を示してほしい。・目標とした強度よりも低かった要因、材料製作上の改善策を検討されるとよい。また、疲労特性などリサイクル材料の特性を明らかにしていただきたい。・補修部材の構造実験によって力学的な特性を確認し、現場での施工性が十分に把握できれば、実装に近づく。・ネット状補強材と既設コンクリートとの付着、もしくは埋設方法が重要。現場で施工可能な効率的付着方法、設備、埋設時の補修材の剥離など、留意点を明確にし、施工マニュアルや指針化につながることを期待する。・橋梁床板の補修技術については、現在業界においてメンテナンス軽減の観点から耐久性が重視されている。本技術を用いた補修・補強によって得られる構造物の目標耐用年数等についても示すことができるとよい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第49回新道路技術会議において審議したものである。